

「鉄道の安全保障」研究会

研究会の目的

本研究会では鉄道の輸送力と脆弱性について安全保障の視点から考察する。ウクライナ侵攻や東日本大震災は、戦時下及び災害発生時の鉄道の輸送能力の重要性和脆弱性を明らかにした。本研究会では過去の戦争や自然災害と鉄道の関わりを考察し、「鉄道の安全保障概念」の構築を目指す。

今年度の取り組み

先行研究調査では、鉄道と安全保障（Security）を結びつける研究が極めて少ない中、安全保障という語こそ用いないものの、戦時の鉄道輸送や交通インフラの自然災害への脆弱性について議論する先行研究を収集することができた。先行研究調査について進められたと評価している。フィールドワークについても積極的に取り組むことができた。24年9月は北海道函館へ赴き、軍事目的で建設された戸井線（未成線）の資料を収集した。25年2月は、仙台でフィールドワークを実施した。東北大学の震災資料ライブラリーを訪問し、東日本大震災後の鉄道復旧に関連する資料を収集した。また仙石線旧野蒜駅を訪問し、津波による被害を受けた駅施設や保存されている資料を視察した。

以上、充実した研究活動を行うことができ、一定の成果を挙げたと評価できる。一方研究成果の発表については、24年度中に行うことができなかった。



次年度以降の取り組み

「学生研究会活動支援制度」より支援を受けるかについては未定であるが、次年度以降も研究会活動を継続する予定である。今年度の取り組みにより、議論の方向性のある程度定めることができたため、次年度以降は事例調査をより積極的に行い、議論を精緻化させる。今年度行えなかった研究成果の発信については、次年度以降積極的に挑戦していく。本研究領域は、先行研究が十分に蓄積されていないため、研究成果を発信できるようになるには時間を要するが、

研究メンバー募集について

本研究会は、新たな研究メンバーの参加を歓迎しております。ご興味ご関心のある方はお気軽にご連絡ください。